

親を亡くした子どもにとっての「希望の火」を灯し続ける

「交通遺児でヤングケアラー」の子どもへ適切な支援を考える



立正大学 社会福祉学部
社会福祉学科 教授

森田 久美子 氏

交通遺児育英会として、今初めて実施された調査について、森田教授の協力を仰いだ経緯についてお話を伺います。

森田 調査の質問項目は、世話をする家族の有無、家族の誰を世話しているか、ケアに費やす時間・頻度、ケアラー自身の身体的・精神的健康状態、周囲に対して相談経験があるかなどで構成しました。

森田 調査の結果、調査対象の約36%が、次いで母親の29.3%でした。また、助けを求めているのは「家庭への経済的な支援が高校生で37.5%、大学生・短大生以上では35.0%に達しました。当会としては、地域ごとにヤングケアラーの窓口、仕組みなど公的な支援組織がありますので、これを紹介することが最初に行きたいと思っています。

森田 調査の結果、調査対象の約36%が、次いで母親の29.3%でした。また、助けを求めているのは「家庭への経済的な支援が高校生で37.5%、大学生・短大生以上では35.0%に達しました。当会としては、地域ごとにヤングケアラーの窓口、仕組みなど公的な支援組織がありますので、これを紹介することが最初に行きたいと思っています。

森田 調査の結果、調査対象の約36%が、次いで母親の29.3%でした。また、助けを求めているのは「家庭への経済的な支援が高校生で37.5%、大学生・短大生以上では35.0%に達しました。当会としては、地域ごとにヤングケアラーの窓口、仕組みなど公的な支援組織がありますので、これを紹介することが最初に行きたいと思っています。

社会問題として近年注目を集めている「ヤングケアラー」について、公益財団法人交通遺児育英会（石橋健一会長）が今年7月に発表した調査で、奨学生全体の15.8%が家族のケアをしており、そのうち3割近くが家庭、就学に対する経済的支援を求めていることが分かった。こうした子どもの未来のために社会ができることは何か。石橋会長とヤングケアラー研究の第一人者である森田久美子・立正大教授に語ってもらった。



公益財団法人 交通遺児育英会
会長

石橋 健一 氏

交通遺児育英会として、今初めて実施された調査について、森田教授の協力を仰いだ経緯についてお話を伺います。

石橋 調査の質問項目は、世話をする家族の有無、家族の誰を世話しているか、ケアに費やす時間・頻度、ケアラー自身の身体的・精神的健康状態、周囲に対して相談経験があるかなどで構成しました。

石橋 調査の結果、調査対象の約36%が、次いで母親の29.3%でした。また、助けを求めているのは「家庭への経済的な支援が高校生で37.5%、大学生・短大生以上では35.0%に達しました。当会としては、地域ごとにヤングケアラーの窓口、仕組みなど公的な支援組織がありますので、これを紹介することが最初に行きたいと思っています。

石橋 調査の結果、調査対象の約36%が、次いで母親の29.3%でした。また、助けを求めているのは「家庭への経済的な支援が高校生で37.5%、大学生・短大生以上では35.0%に達しました。当会としては、地域ごとにヤングケアラーの窓口、仕組みなど公的な支援組織がありますので、これを紹介することが最初に行きたいと思っています。

石橋 調査の結果、調査対象の約36%が、次いで母親の29.3%でした。また、助けを求めているのは「家庭への経済的な支援が高校生で37.5%、大学生・短大生以上では35.0%に達しました。当会としては、地域ごとにヤングケアラーの窓口、仕組みなど公的な支援組織がありますので、これを紹介することが最初に行きたいと思っています。

支援を必要とする子どもにも光を当て 正しい知識と適切な対応について周知する

生の実態に関するアンケートを実施しました。当会としてはヤングケアラーについての知見が少なかつたこともあり、子ども家庭に相談をして、森田教授を推薦していただき、調査設計の段階から監修をお願いしました。

森田 調査の結果、調査対象の約36%が、次いで母親の29.3%でした。また、助けを求めているのは「家庭への経済的な支援が高校生で37.5%、大学生・短大生以上では35.0%に達しました。当会としては、地域ごとにヤングケアラーの窓口、仕組みなど公的な支援組織がありますので、これを紹介することが最初に行きたいと思っています。

森田 調査の結果、調査対象の約36%が、次いで母親の29.3%でした。また、助けを求めているのは「家庭への経済的な支援が高校生で37.5%、大学生・短大生以上では35.0%に達しました。当会としては、地域ごとにヤングケアラーの窓口、仕組みなど公的な支援組織がありますので、これを紹介することが最初に行きたいと思っています。

森田 調査の結果、調査対象の約36%が、次いで母親の29.3%でした。また、助けを求めているのは「家庭への経済的な支援が高校生で37.5%、大学生・短大生以上では35.0%に達しました。当会としては、地域ごとにヤングケアラーの窓口、仕組みなど公的な支援組織がありますので、これを紹介することが最初に行きたいと思っています。

森田 調査の結果、調査対象の約36%が、次いで母親の29.3%でした。また、助けを求めているのは「家庭への経済的な支援が高校生で37.5%、大学生・短大生以上では35.0%に達しました。当会としては、地域ごとにヤングケアラーの窓口、仕組みなど公的な支援組織がありますので、これを紹介することが最初に行きたいと思っています。

石橋 調査の結果、調査対象の約36%が、次いで母親の29.3%でした。また、助けを求めているのは「家庭への経済的な支援が高校生で37.5%、大学生・短大生以上では35.0%に達しました。当会としては、地域ごとにヤングケアラーの窓口、仕組みなど公的な支援組織がありますので、これを紹介することが最初に行きたいと思っています。

石橋 調査の結果、調査対象の約36%が、次いで母親の29.3%でした。また、助けを求めているのは「家庭への経済的な支援が高校生で37.5%、大学生・短大生以上では35.0%に達しました。当会としては、地域ごとにヤングケアラーの窓口、仕組みなど公的な支援組織がありますので、これを紹介することが最初に行きたいと思っています。

ハンドルの重みは命の重み[®]

交通事故・飲酒運転をゼロに。

交通遺児育英会は、50年以上にわたり、保護者が交通事故で亡くなったり、重度の後遺障がいのため、経済的に修学が困難になった子どもたちに、高校や大学・専門学校などへの進学を支援し続けています。修学を終えると、社会に役立つ人材として羽ばたいていきます。私たちの活動は大きく5つの事業で成り立っています。

- ① 奨学金の無利子貸与（一部給付）
- ② 奨学生の指導および育成と交流
- ③ 学生寮「心塾[®]（こころじゅく）」の運営
- ④ 修学支援金の給付
- ⑤ 交通安全推進運動への協賛・協力、無料出張講演等

